

◎新春特別企画 中心市街地活性化座談会

変わる白河の鼓動を。



白河市
Suzuki Kazuo
鈴木和夫 市長

昭和24年生まれ。平成19年7月29日に白河市長に就任。「できるという市民の機運が、白河市を変える原動力です」と話す。



市中心市街地活性化協議会
Wachi shigezou
和知繁蔵 会長

昭和7年生まれ。平成19年6月に市中心市街地活性化協議会会長に就任。「みんなで中心市街地にぎわいを取り戻そう」と話す。



(株)楽市白河
Suzuki Masafumi
鈴木雅文 社長

昭和33年生まれ。平成21年7月に(株)楽市白河代表取締役社長に就任。「まちづくりの協力者が一人でも多くなることを願います」と話す。

民間が自ら考えて行動する大きなビジネスチャンスです。
鈴木社長

白河の中心市街地が大きく変わるうとしています。その概要について伺いたいと思います。
鈴木市長▼ 新図書館は4月オープンに向けて準備を進めています。中小企業等を支援する産業サポート白河を併設し、知の集積拠点とともに多様な交流拠点として、中心市街地の核施設になると考えています。

和知会長▼ 商工会議所会館の建設については、景気低迷の状況だからこそ、今、建設すべきとの声があり、実施に踏み切りました。今まで以上に利用しやすい会館所を目指したいと思います。

鈴木社長▼ 中町蔵活用事業「楽蔵」は民間部門で実施するものです。白河の財産である蔵を活用し、まち歩きや食事、買い物の拠点を創りだし、中町から大工町をつなぐことにより、人々が有機的に活動して様々な事業が展開できると考えています。

まち歩きの拠点を整備することにより、どのような変化が生まれると考えていますか。



▲12月10日、「えきかふえ SHIRAKAWA」で座談会を行いました

「中心市街地活性化基本計画」が県内初となる国の認定を受けたのが、平成21年3月27日。それから、まちなかのにぎわい創出のため、様々な取り組みが行われました。平成23年春には、新図書館・楽蔵・商工会議所会館などの完成が予定され、中心市街地が大きく変わる年になります。今月号では、「中心市街地活性化座談会」と題し、白河市長、市中心市街地活性化協議会長、(株)楽市白河社長の座談会をお届けします。

市民が同じ方向を向いて、今、歩きだしました。
鈴木市長

性は増していくと考えています。中心市街地活性化基本計画を観光面でのように生かしたいと考えていますか。
和知会長▼ 京都・奈良・鎌倉などの観光名所には、お寺を見に行きますね。白河には主だった全ての宗派の寺院があり、魅力的な資源であると考えています。これを生かし観光に結びつけて行くことが、今後の中心市街地に必要なことだと思えます。
さきほど民間の方にビジネスチャンスをといた話がありました。が、楽市白河ではどのように考えますか。
鈴木社長▼ 市内には歴史的・文化的な資源が点在していますが、新図書館や楽蔵などの建設により、それらの貴重な資源をつなぐ動線が確立され、今までよりも回遊性が高まると思います。これらの条件整備を生かして、民間が自ら考

みんなの総意で進めることが新しい変化の鍵です。
和知会長

えて行動する大きなビジネスチャンスであると考えています。
中心市街地活性化というところ、中心部だけのものという印象がありますが、白河全体で捉えらるような意味がありますか。
鈴木市長▼ 白河駅・小峰城を中心とするエリアが「白河の顔」であると市民の皆さんに伝えてきました。都市には、誇れるもの、そして象徴すべきものが必要です。市全体の顔づくりが、中心市街地活性化基本計画なのです。さらに利便性だけでなく、文化的な香りをつけることにより、全体のにぎわいにつなげていきたいと考えています。

和知会長▼ 中心市街地に、にぎわいを取り戻すことが大切です。白河市のためにみんなで考え、仕掛けていくことが必要です。昔は、農家で米が取れると商店も喜びました。みんなで喜び、みんなの総意で進めていくことが新しい変化の鍵だと思えます。
鈴木社長▼ 白河を出て行った方がいつでも白河を思い出せるように、また白河出身であることを誇りに感じてもらおうようになってほ

白河市の未来

Future

- 商工会議所新会館
産業経済活動等の拠点として、多くの方々が利用しやすい商工会議所となる(4月開所予定)。
- 中町蔵活用事業「楽蔵」
多目的広場を活用し、「伝統工芸・地場産品」をテーマとしたテナントミックスを実施する(4月完成予定)。
- 新図書館
図書館機能のほかに、地域交流機能・産業支援機能等を備えた多目的複合施設を整備する(4月完成予定)。

しいと思います。そのためにも市民全体で創り上げる白河の顔づくりはとても大切です。
最後に、今後の中心市街地活性化に対する抱負をお聞かせください。

鈴木市長▼ 今、白河のまちが動きだしました。これまでの白河は潜在能力がありながら力が発揮できない状況でしたが、現在では市民が同じ方向を向いて、歩き始めました。これが白河を創る原動力になっていくと思えます。以前の中心市街地に対するあきらめたムードから「できる」という気持ちに変わってきたように思えます。このことは、行政の様々な分野にもあてはまり、そのような機運が市全体を変えていきます。皆さんと共に足並みを合わせ、進めていきたいと思えます。
和知会長▼ 自身は結婚式場の経営をしていますので、地元の方がいかに大切かを認識しています。商工会議所では、お互いに支え合っていく意識を育みながら、中心市街地の活性化にひと役買っていきたくと考えています。
鈴木社長▼ 平成23年は楽蔵を完成させ、まち歩きの拠点の一つとして利用してもらおうのが目標です。また、街に住んでもらうのが目標です。また、街に帰ることも念頭に置きながら、まちの人情などの価値をアピールしていきたいと思えます。ありがとうございました。



▲官民協働による飛躍の年を誓いました

躍進する白河のとき。